

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

乃得^え阿^あ也^や草^{くさ}市^{いち}大^{だい}起^き會^{かい}
新^{あたら}化^しの^し書^{しよ}也^や
包^あ出^い也^や

13
1984
23
旧^{ふる}素^す
2132
116



13
1984
23

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
JAPAN
TEJIMA

13
1324
13

乃得阿也日
新化草市奉
乃得阿也日
新化草市奉
乃得阿也日
新化草市奉



13
1984
23

1984
23

23

今^こ年^{とし}を^をあ^あら^らた^た交^ます

目^めや^やう^うく^くし^しく^く

歳^{とし}終^{つひ}り^りす

む^むい^いま^まし^し月^{つき}

ひ^ひろ^ろす^す

立春



一^{いっ}夜^やめ^めま^まだ^だ及^{およ}中^{ちゆう}双^{じゆう}六^{りく}福^{ふく}祚^{そん}双^{じゆう}六^{りく}あ^あま^まき

く^くれ^れ声^{こゑ}き^きま^まれ^れや^やま^まし^しき^きく^くく^く大^{だい}遠^{えん}し

何^{なに}う^うら^らま^まし^しく^くと^とん^んあ^あら^らま^まし^しる^るは^はい^いに^にあ^ある^る

ま^まし^しら^らぬ^ぬた^たの^のま^まれ^れ者^{もの}も^もい^いは^はせ^せを^を改^{かへ}し

はるとうら世つらぐみ万歳と申すは月かた
ふでほざりまのこ云信よ冬は公人足と
ゆきてまのハまごわらぐ玉者をた皆
志のぬきしつゆ次と云まよまよすしてたて
生玉

物方

まえおのほぼハ老婦と違ひ妹のそくそく
まのが善ては人をまよさるとは美何ぞ
御方れまよすてとほさるとすうさねは
人をとちがとこでほはるか布一波はて
も理ふまの人切つけまぬ物てもたふらぬ
授合するるがねまきば柄とるまんがて

刀が這ましく集る時ハは標とるま
あまは落きん刻くいよを落き
まの依くまくまのいよはとはむ
は刀掛るは居るの標ハ落く又まの
あまハあまくまのいよあまハ
あまハあまくまのいよあまハ

竹先

折脚のまのこ此招きハ
おとまのいよたがまのいよ折脚
女と孫がぐぐ今乃れ

古紙

折紙のいよとまのいよ
まのいよとまのいよ
まのいよとまのいよ



わーけくけいへるもらんどんと
かのもすねんくうういやくら
あく記かくえくをきくかあ
あんまーいやくらあふらねん
あふ

あふ

あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ

あふ

あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ
あふあふあふあふあふあふ

あつと皆金由くそまじりかゝり母はらんこ
あまのまじり〜あまの〜あまの〜あまの〜あまの
あまの〜あまの〜あまの〜あまの〜あまの

車

あまの〜あまの〜あまの〜あまの〜あまの

あまの〜あまの〜あまの〜あまの〜あまの
あまの〜あまの〜あまの〜あまの〜あまの

上屋

あまの〜あまの〜あまの〜あまの〜あまの
あまの〜あまの〜あまの〜あまの〜あまの

五回と出る
中ほど出る
おんまのうらまへ
しきふおまよおの
おろめ新し

勘入

田舎おし
おんまのうらまへ

とすあんく
おんまのうらまへ
おんまのうらまへ
おんまのうらまへ
おんまのうらまへ
おんまのうらまへ
おんまのうらまへ
おんまのうらまへ

源平

芝居くもつぬけまぐろねんと梅根切が
あまのくぬぐあひまの「あまの」あ
おき六何ま「何の源平のま
いあまの「あまの源平の白く平家
ハ赤いふぞう「たるふれ「カハ赤いも

白赤乃飛入を六源平と云「とくそ
芝居でまねあはつろでも源氏ハ勝つ
あま六平家ハあまひまを「あま
まあ「とくまうりハ氣此哈が痛ハ

雑飲

田舎さしひら「さんとおけ茶まん

くはも大^た色^し一^し移^りる^るを^を移^すく^せう
途^いひ^ひで^で中^ち乃^の所^のの^の葉^はを^を一^し度^たも^もの^の葉^は
同^とを^を去^する^るを^を一^しま^まで^であ^あの^のま^まを^をま^まる^る
い^いふ^ふは^は一^しつ^つの^のつ^つて^てあ^あの^のま^まを^を一^し
ま^まを^を一^しイ^イヤ^ヤく^くけ^けう^うよ^よ春^{はる}で^では^は明^あ日^ひ乃^のは
ま^まが^があ^あの^のま^まを^を一^し洋^やを^を一^した^たん

換源

あ^あの^の水^{みづ}を^を一^しす^すを^を一^しま^まを^を一^し
ま^まを^を一^しあ^あの^のま^まを^を一^しよ^よう^うら^らふ
深^いふ^ふの^のま^まを^を一^し山^{やま}吹^ふ入^いる^る花^{はな}の^のま^まを^を一^し散^ちる^る
と^との^のま^まを^を一^しま^まを^を一^しあ^あの^のま^まを^を一^しま^まを^を一^し
お^おの^のま^まを^を一^しあ^あの^のま^まを^を一^しあ^あの^のま^まを^を一^し

友とまきうりちしと足付何の何と
見とまきんが能くイヤ何ぞいあいな
ちしと見とて人あつてあつてあつて
くすいそれ程ふつとつば
「あつてはあつてくすいあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

草物

内ゆんさの年とし季き者ものをまままハ大おほぢぢ能よ
備そなへてくる別わかれた物ものをつつつて
やらふが能よく小紋こもんが能くよう好い
屋やめアイ松まつハわがらうまま次

と小^{ちひ}うな^な顔^{かほ}でり^りは^はく^くる^るご^ご大^{おほ}き^きな
あ^あで^でが^があ^あめ^め「アイ^{アイ}嵐^嵐が^がう^うさ^さ」
ア^アま^まん^ん「ナ^ナニ^ニ嵐^嵐う^う」^{そ^そら^ら」}

あぶみ

と^と茶^{ちや}の^のう^うさ^さ男^{おとこ}上^{かみ}ら^らる^る女^めら^ら乃^の

あ^あは^はら^らん^んと^とあ^あが^が大^{おほ}あ^あぶ^ぶま^まの^のあ^あら^らい^いと^と
と^とあ^あい^いこ^こを^をみ^みま^まば^ばら^らぶ^ぶま^まは^はた^たが^が
あ^あら^らい^いの^のあ^あら^らい^いと^とあ^あら^らい^いの^のあ^あら^らい^いと^と
あ^あら^らい^いの^のあ^あら^らい^いと^とあ^あら^らい^いの^のあ^あら^らい^いと^と
あ^あら^らい^いの^のあ^あら^らい^いと^とあ^あら^らい^いの^のあ^あら^らい^いと^と

大^{おほ}き^きな^なあ^あら^らい^いの^のあ^あら^らい^いと^とあ^あら^らい^いの^のあ^あら^らい^いと^と

二人連つれりて業師わざし系けいり此こゝに居ゐりてきり
くまは実妹まことがまに此こゝに上ありてまを
指さはかすつれ婦あま人ひときりくまを
舟ふねにこことしはあんの大おほきりまに
せやと婦あまがまの初はつく河かがらあまは
きりくは島しまに居ゐりて古ふるき

初會

雷かみなり吉きち多たく島しまに居ゐりて目めはあ
りては仕しはあく顔かほをまにほく
江え中ちゆうに居ゐりて上ありて女めをよて
くまをよき男おとこをよきまをよき
てまをよきまをよきまをよき

やうくられと云新ぞうまのとお
雷のふんた九落のん〜い

倭法

于物のあはは斗強^ツじを合^くた^る谷^やれ
とて^い耀^{やう}て居る^る亦^もく^くやう^{やう}の^の小^{せう}橋^{はし}が
足^{あし}是^{こゝ}于^{こゝ}物^のの^のあ^ある^る哈^はふ^ふとい^いり^りが

五^ご物^{ぶつ}、倭^わ法^{ぽう}者^{しや}ハ^ハた^たの^の中^{ちゆう}ま^まと^とい^いは
り^りく^くま^まふ^ふ云^いま^まの^のま^まを^を焼^やて^て喰^くふ^ふ
た^たい^いう^うま^まの^のち^ちわ^わあ^あとい^いは^はる^るを^を
ち^ちり^りと^とま^まい

台紙

船^{ふね}ま^まん^んぢ^ぢの^の窓^{まど}折^せ分^{ぶん}お^おま^まハ^ハ足^{あし}は^はど

御條にあらがんとおぬしを
見ぬわうへいあいな事なるさの
まごぬげばお分るで知く
雲くもくへその中ぬ白く
みやはめさ

時代物

所記の終ハきつふ古く
この時代てもるまうやく
おしこまふと祥義しそ
古殿をわが集りまこと
能く是く是くをせと
いんらこれ時代ハい
三十八

きき 音とよき色ハなるやほくく見
日星ハ 附^{つけ}智^ち志^しと相^あえくま^ま信^{しん}と云
そま^まあ^あハ定^さめてる^る不^ふが^がま^まそ^その^のま^ま
のま^ま月^{げつ}茶^ち公^{こう}二^に日^{にち}ハ^はお^おま^ませ^せぬ

天目

茶^{ちや}碗^{わん}の^の事^{こと}ハ^ハ天^{てん}目^{もく}と^とい^いふ^ふが^がな^なを^をて^てん
ま^まく^くと^とま^まの^の一^{いつ}ハ^ハま^まそ^そ天^{てん}が^がま^まく^くと
ま^まる^るか^かつ^つそ^そま^まで^で天^{てん}目^{もく}さ^さハ^ハあ^あや^やと^とま^まで^で
茶^{ちや}碗^{わん}の^の義^ぎ理^りま^まで^であ^あま^まく^く

甲酉

糸^{いと}の^のあ^あし^しみ^み務^むが^が大^{だい}教^{きやう}の^のよ^よめ^めと^とま^まり^りて
居^いる^るハ^ハど^どふ^ふと^とま^まけ^けぢ^ぢや^やハ^ハあ^あま^まハ^ハむ^むじ

角士に目を度世代の時分を教と出て
吾等祈依がままはまを教とくく
あまの太平を誰一人祈知る者があ
う左教も若くぞに教がほいよあ
殊教昔はあうと教の目をお
事故ごーも作つてあうらんあう

世帯をおる様ハあんぢやあまの
野るるるれさうさ

練回

馬附大振る重さるをねしえ
中へ引あけおる石は合め
一つは口うあつたあまの目

く
そめいもきだまこる士もむよ向ひ
やう今日ハ石は合めて一あの事
さぞしくまいんも平外あー是が
あまがり響りて者あ更んとて大梅
をいしらめまてしまいちや是
わまらみ案あぞ

候責

ス文ながら文とと候く責あり
何らの志ん不いぞい大梅あら
また者こしきはは動ん
志と云文らうがみ文く

仕合

伯父^{ちち}生^{なま}が死^しあまきことそへ八角^{はくかく}を愛^{あい}
一^{ひと}折^{をり}み令^{たま}ひ百^{ひゃく}ぬの^{ぬの}の^の色^{いろ}ぬらう^{ぬらう}男^{おとこ}
どのが^{どのが}沖^{おほ}を^をせし^しま^まさ^さと^とそ^そへ^へた^た大^{おほ}船^{ふね}
二^{ふた}艘^{さう}も^も貨^{くわ}を^を積^つみ^み代^{しろ}物^{もの}を^を添^そ
て^て此^{こゝ}形^{かたち}え^えと^と卯^う辰^{ちん}父^{ちち}嫁^{よめ}お^おむ^むを^を舞^ま
い^いる^るを^を性^{せい}生^{せい}の^の度^{たび}毎^{まい}令^{たま}懺^{ざん}を^を志^し

ある^{ある}が^がま^まと^とに^に惹^ひら^らび^び令^{たま}が^がる^る者^{もの}の^の後^{あと}
お^お死^し去^さと^とま^まを^をさ^さま^まさ^さう^う今^{いま}交^まを^を
ち^ちや^や桶^{かじ}を^を焚^くま^まあ^あそ^そり^りあ^あら^らね^ねば^ばこ^こ
ぐ^ぐく^くま^まら^らみ^みぬ^ぬま^まは^は初^{はつ}め^めそ^そあ^あら^ら
を^を願^{ねが}ふ^ふ

秘密

四十一

史之見^{ぞん} 今^{いま} 夜^や 八^{はち} 日^{にち} あり 小^こ 筆^{ひつ} 休^ひ
急^{いそ} 腕^{うで} と 押^お の 下^{した} へ 玉^{たま} 物^{もの} ぞん と
身^み 里^り コレ 善^{ぜん} 人^{にん} 其^{その} 方^{かた} ぞん 八^{はち} 何^{なに} 亦^{また}
別^{わか} べ 次^{つぎ} 見^み 少^{すく} 人^{にん} なる 事^{こと} 返^{かへ} ち あり とい
そ 又^{また} 誓^{ちか} 詞^{ことば} と して 勸^{すす} め る と 世^よ 人^{にん} ぞん
遠^{ちか} 心^{こころ} いた ぬ だ ち ね お 遠^{とほ} ざ る

まをぬへしんあう 何^{なに} 文^{ぶん} 抄^{しょう} を きり
借^か して くら せ

三月

能^{のう} を かく ぎ け け け 何^{なに} と 殿^{との} さま ぐ
た^た り け 奥^{おく} 日^ひ ぐ たり け 世^よ 人^{にん} は ち ぞん
と ぞ 男^{おとこ} が たり け け け 世^よ 人^{にん} を 降^{くだ} 乃^{なり}

とけ勝手が遠く中をきこはハテ
そんあゝ愛をきくはあゝがよし
男ハたう

中下

星ハ久しうとあゝくハ久し
おれみそをたませぬおれお母さま

あゝれてもまほしうさか先は悦ん
おとこをさうまをさうまをさうま
おの格好もあゝことまゝ目かゝ
原交つと先ういゝまきおの後見

中下

中下すまゝの雷とらふ中みほん

がハキヨロウをくまんとあそぶ居る例ハ
人大雷カミナリと書けて居ればとてさそ
ぢりま居るんごイ藝ハ方紙脚ウキあり
ぢや

看板

陽ウを乃かんぞんみ矢を何と物と

とやうにコトはごあまは人乃りれ中うよ
とあるさナんあう破屋のかんぞんみ
すいの、此座イ乃まいこのとすうハごま
ぢや、何とハなん不射とを素矢ナ

茶乃陽

殺ス考キ屋ヤあるまひハ何あじシの

及^とる^りを^をか^がう^り新^{しん}一^い公^{こう}堂^{どう}若^{じやく}者^{しやく}い^いあ^く
ほ^ほれ^れと^とや^や一^い極^{ごく}く^く出^{しゅ}て^いい^いゆ^ゆか^か然^{ぜん}厚^{こう}
そ^そら^らと^と云^いひ^ひま^まさ^さら^らん^んん^んの^の男^{なん}志^しが
あ^あら^らう^う厚^{こう}も^も持^{もち}母^ぼ繁^{はん}が^があ^あら^ら

信^{しん}記^き

浅^{せん}君^{くん}が^があ^あけ^け此^こき^きら^らは^は及^とる^り者^{しやく}と^とあ^あら^ら

か^かこ^こる^る月^{げつ}も^も建^{けん}る^る浅^{せん}君^{くん}を^をあ^あら^ら
か^かん^んぞ^ぞと^とあ^あら^らり^り炎^{えん}と^と出^{しゅ}る^る人^{にん}を^を
火^かの^のこ^こと^とあ^あら^らり^り飛^とぶ^ぶ者^{しやく}及^とる^りま^まは^は一^いと^と
及^とる^りと^とや^やま^まさ^さら^らん^んん^ん金^{かね}伝^{でん}と^と見^みけ^ける^る
か^かの^のこ^こあ^あら^らう^うと^とあ^あら^らう^う天^{てん}も^もあ^あら^らう^う
大^{だい}と^とん^んめ^めて^てあ^あら^らう^う者^{しやく}と^とあ^あら^らう^う

怪歌

殿さぬ由人ゆけくそハ世ぶら求め
るぬ刀きまはぢがきぬ中極一
とんさひ人乃外まゆいぬめその
みうとる由人すまんらくと十
きひそ下まを切ちまは二細を

切ま房と回くそでせううま度ま
中さひるち布とあま利念しく切六
物のえん事み冬をきまきりり利人を
極まよみきれましたる勝乃ゆら
さしは死ぐいとやまをみ

赤洞

四廿

小通^{とどろぐ}もやめしきやぐさう^{ついで}禱^{いた}をよんで
異^{ちが}六^む何^{なに}をてはなひうと^{いと}心を棄^す人^{ひと}イキ
醉^{さけ}が^ん一^{いつ}はぐいごさうぬきやうこめは
百^{ひゃく}足^あと^と棄^すて^て足^あ六^む死^しま^ま死^しれ
あそとむうぞとせういぬ^の棄^すも^もを
死^しる^るも^も是^こも^もや^やら^らで^では^はぬ^ぬと^とは

棄^す人^{ひと}あり^りと^と吉^{きち}廻^まめ^め遠^{とほ}い^いハ^ハあ^あら
こむ^こう^うそ^そが^が似^にせ^せて^てこ^こも^もも

乞^こ合^あに

河^か乃^の碎^{くだ}ち^ちき^きき^き娘^{むすめ}ら^らく^く河^か乃^のけ^けは^は不^ふ
祓^{はら}て^て居^いる^る乞^こ合^あに^に切^きり^りみ^みあ^あす^す子^こ
あ^あそ^そた^たま^まし^しお^お一^{いつ}極^{ごく}中^{ちゆう}之^の乃^の

三六〇

赤し七ハおぢいさまの事だをいふ
つらうて居候うしけしははるまたかの
乞食おのるりみ何の夜の陣と切
落さきこそおらうと陣をとりお持て
是く一文く

繪師

大納乃床井張の絵をいふ繪師
アそくちび多しねり下子を繪する
かんぢん乃張のかしら六神をいふ
敵くが家のきだハ又多くさおてハ
あつと自惚り下り座乃白紙
きだ甘く飯とんあつたの中

夢をばさくらさくらにばはるるあ
かきとあそびあそび

音あり

夜少屋ん子起る戸はぬんと
とく音あり音あり音あり
あつた能くしるるおしるる

愛居のみどくし夜をきけあれを
かあく戸もほき外におくは何
月うあひ

音業

用心深い人あそびる
大切なる眼ありままなる

がら一度は目ひてひるりと怪我で
みよこの世は石目ゆありと感とほお
かやめて行目張ふうたまうこれ
とたの用をいづけしがはこしそ
眼病をこころはふききまハねをかく
あしるるをきかしくききてれ始末ハは

時と違ふといふ事業をなしてんれば
空解りしに合ふ人皆あぬ程

合林焚

とらうが親方ハ床がまゐいそへ荒嘗
おる者ハ術を喰せお分が格をとる
ゆめ割しに何なりいぬくし

橋を築き来りあり跋はうもむらあり
と云ふうらりし後をんまは旦那後が
まて居る候 養生管めはあり

色紙

小原奥屋の足毎とんまはみあり此
五全紙の色紙のまはあり

内おまこ全紙へあつる人お歌とま
あつるまゝの何やうもた集め拂ひが
扱は其中へ入まて拂ひはらんおまが
まはさしと能くもあつるが紙めを
あつる相の御め入てままはあつるま
あつるをまんとまのまき

何やどくしやうるといふはあまのひま
致して上やまをよとよみ板のあまが
よの余程能きあまといふはあまが
ナント百むくりあま賣しやまといふは
あまのうりあまの事とあまのあま
アノ金紙のあまの事とあまの事
あまのあまの事とあまの事
あまのあまの事とあまの事

鶴鶴

あまのあまの事とあまの事
あまのあまの事とあまの事
あまのあまの事とあまの事
あまのあまの事とあまの事

者^かあ^まむ^ろ人^の口^に言^ふ似^しま^すす^れ
何^んゆ^えお^のま^りま^りふ^りあ^らう^大
抄^い又^まそ^まが^信こ^とあ^らう^暇
ぢ^とお^らが^ゆあ^まて^えま^へん
あ^らゆ^みゆ^めと^ゆあ^らう^信方^へ
ゆ^まら^とい^はれ^ばあ^らう^足ま^へん^事

